

令和4年度

学校自己評価報告書

令和5年 3月31日

学校法人 東洋学園

専門学校 東洋公衆衛生学院

自己点検評価委員会

学校自己点検・評価とは、学校が学校運営状況について自ら評価し、その結果に基づき改善することである。本校では、学則第4条及び自己点検・評価規程により実施し、学校及び学科の方針、運営計画にもとづいた教育活動や学校運営に対し、総合的に評価した。

根拠として、授業評価資料、会議の議事録、日報、学生指導の報告書、復命書等がある。

評価項目を自己点検・評価規程第2条の10項目とし、また、評価段階を4段階（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とした。

I 教育理念・教育目標

	評価項目	評価
1	教育理念・教育目標が設定されている	4
2	教育理念・教育目標は明文化している	4
3	職業教育の特色を持っている	4
4	教育理念・教育目標が周知徹底されている	4

【状況】

- ・「医の倫理をわきまえ、医療人としての学術を基本に、情操豊かな人間性を培う」という教育理念、(1)自己の成長のために学習を継続するとともに、職業人としての問題の追及と解決に当たる態度を身につける。(2)責任感と実務能力を備え、社会の信頼に十分にこたえられる知識と技能・態度を身につける。(3)人とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を培い、幅広い教養を身につける。という教育目標を設定し、明文化している。
- ・教育理念・教育目標は入学前教育及び4月の新入生ガイダンスで説明し、さらに、学生便覧、学校案内書・Webサイトおよび学内掲示板で周知している。

【課題・改善策】

- ・学生便覧、学校案内書・Webサイトおよび学内掲示板で周知しているが、まだ、十分とはいえないため、学校全体の取り組みとして、充実させていく。
- ・日頃から学生に対して建学の精神、教育理念や教育目標に基づいて指導を行う上で、教職員自ら実践することを心がけ、改善に努めていく。

II 学校運営

	評価項目	評価
5	目的に沿った運営方針が策定されている	3
6	運営方針に沿った事業計画が策定されている	4
7	運営組織や意思決定機能は規則等において明文化され、有効に機能している	4
8	人事や給与に関する規程等は整備されている	4
9	情報のシステム化による業務の効率化が図られている	4

【状況】

- ・一部事業計画の見直し・変更等があったが、おおむね順調に、年間スケジュールに沿って事業計画を進めることができた。
- ・法人の意思決定事項は寄附行為で定めており、主要な項目は理事会・評議員会で決定している。通常の業務運営については理事長・学院長の下、各部署の役職者にて、意思決定と組織運営を行っている。
- ・就業規則、給与等の諸規程については整備され、状況に応じ改正している。

- ・パワーハラスメント防止法が完全施行となり、匿名型ハラスメント相談窓口システムを設置した。また、外部講師によるパワーハラスメントに関する研修会を教職員向けに実施した。
- ・LAN サーバー及び Google Workspace for Education（以下 Google Workspace と略す）を導入し、教職員間で情報を共有し、業務の効率化を図っている。

【課題・改善策】

- ・学則に定めた目的を達成するよう学校運営にあたっているが、具体的に学校および学科運営方針の策定を要する。
- ・教職員会議などで学校運営方針の意識付けを積極的に行う。
- ・LAN サーバーが老朽化の為、不具合を起すことがあり、更新が必要である。
- ・Web サイトによる情報公開を積極的に行う。
- ・学校運営について、安定的な定員確保と学生指導と施設面の整備について今後も継続して検討する。
- ・Google Workspace により、教職員と学生及び教職員間の情報共有がスムーズに行われたが、引き続き、各教職員及び学生のスキル向上に努めていく。

III 教育活動

	評価項目	評価
10	カリキュラムは体系的かつ適正に編成されている	4
11	人材ニーズ等に合わせ、カリキュラムの見直しが行われている	4
12	成績評価・単位認定の基準は明確に設けられている	4
13	授業計画が明文化され、それにもとづく教育を実施している	4
14	授業評価の実施、評価体制が整っている	4
15	教員の資質、指導能力向上に対する方策を採っている	4
16	資格取得の指導体制はある	4

【状況】

- ・カリキュラム編成については、指定規則に則り教育内容の充実に努めており、講義、学内実習、並びに臨地・臨床実習を重視している。
- ・学科長を中心とした各学科の担当で構成された会議にて、養成所指定規則、養成所ガイドライン及び養成所指導要領の改正に伴い、令和4年度入学者のカリキュラムを改正した。
- ・学則、履修方法及び進級・卒業認定細則により成績評価・単位認定の基準を明確にしており、進級及び卒業認定は学院長、学科長で構成された進級査定委員会、卒業認定委員会で決定している。
- ・シラバスを全面的に改訂し、内容の整備を行った。また、Web サイトでもデジタルブック化して公開している。
- ・授業計画は明文化されており、1年次では基礎学力の習得と医療人としての人格形成を行い、2年次では専門科目の習得と学内実習・臨床実習Ⅰ（診療放射線技術学科）では、医療人としての使命感を高め、3年次の臨地実習（臨床検査技術学科）・臨床実習Ⅱ（診療放射線技術学科）では、これまで学んだことの実践を行い、職業意識の向上につなげる教育を実施している。
- ・GPA 制度を導入して学修成果の指標として役立たせている。

- ・学生による授業評価を実施しており、授業内容の改善に努めている。また、授業評価の実施方法については、Google Workspace Forms による、配信型の授業評価アンケートを行い、積極的に回答ができるような体制をとっている。
- ・Google Workspace Forms で授業評価アンケートを実施しているため、各教員がリアルタイムに評価内容を確認することができる。
- ・令和4年度からの臨床検査技術学科の新カリキュラムで新設された「人間関係論」および「福祉学総論」では、姉妹校である宮崎医療管理専門学校（以下宮崎校）の5名の専任教員による専門的なオンライン授業を行っている。また、本学の専任教員も定期的に宮崎校に向けて、専門的なオンライン授業を行っている。
- ・教員が学会や研修会に参加することを奨励している。ここで知り得た最新の研究成果・時事情報は、教員が授業で積極的に取り上げ、それぞれ創意工夫をしている。
- ・不合格者においては、聴講生制度があり国家試験合格まで指導している。
- ・診療放射線技術学科においては、国家試験対策担当教員を1名選任し、精神面のサポート等1人1人に寄り添った指導を行っている。

【課題・改善策】

- ・専任教員の各専門領域、各教科関連の研修について、学科レベル、個人レベルでの取組をさらに強化していく。また、学内でのFD研修体制を確立していく。
- ・本学と宮崎校間で、今後も定期的にオンライン授業を行っていき、学生に対しては分野の最新情報を共有していけるよう努めていきたい。
- ・Google Workspace Forms での授業評価アンケートの未回答の学生に対しては、断続的に再配信を行い、未回答や回答漏れをなくしていくよう心がけていきたい。
- ・授業担当者へ授業評価アンケートの結果周知を行い、翌年度の授業改善に活用できるような教育支援に取り組んでいく。
- ・国家試験の合格に向けて、学生の能力や習熟度を個々に把握しながら、さらにきめ細かな指導を強化していく。

IV 学修成果

	評価項目	評価
17	就職率の向上が図られているか	3
18	資格取得率の向上が図られているか	4
19	退学率の低減が図られているか	3
20	卒業生の社会的な活動状況や評価を把握しているか	3

【状況】

- ・各学科においてクラス担任が主導となり履歴書等の書き方及び面接の個別指導を行っている。
- ・学生への面接指導を教員による専門職としての目線から、職員による人事採用者としての目線からそれぞれ実施している。
- ・学力不足の学生に学修指導、補講など行うことにより退学の低減に努めている。
- ・放射線取扱主任者試験を受験する学生に対して、合格対策補習講座を実施し、例年以上に合格者を出すことができた。
- ・新着求人票を迅速に学生に公開するために「学生ポータルサイト」で、受理した求人票を随時更新し、各学生がパソコンまたはスマートホンから、常に閲覧できる体制にしている。

【課題・改善策】

- ・履歴書等の書き方及び面接指導を実施しているが、まだ、十分とはいええないため、学校全体の取り組みとして、充実させ内定率を向上させていく。
- ・退学防止に向けて入学時の研修内容の改善や、医療機関との提携によるメンタルヘルスケアの実施など引き続き、学生生活の支援に取り組んでいく。
- ・入学許可と同時に Google Workspace の初期設定を促し、新入生の入学前の学習に対する不安要素を払拭のために環境整備を進めていく。
- ・入学者全員が技師免許を取得して卒業できるように、学生の情報共有に努め、全教職員で退学者防止の対策を強化する。
- ・「学生ポータルサイト」は学内で発行した Gmail アドレスのみ閲覧可能だが、2019年以前の卒業生には原則付与されていないため、閲覧依頼があった場合に、迅速にアドレス発行の手続きができるよう整備していく。

V 学生支援

	評価項目	評価
21	進路指導に関する体制が整備され、機能しているか	3
22	学生相談に関する体制が整備され、機能しているか	3
23	学生の経済的側面を支援する体制が整備され、機能しているか	4
24	保護者と適切に連携しているか	4
25	卒業生への支援体制はあるか	3

【状況】

- ・学生支援室のスペースを拡大し、求人閲覧・報告書閲覧をはじめ、自習や昼食利用で使用できるようにした。また、就職活動のための参考資料の配布、急速充電器の貸出、学生へ貸与しているノートパソコン（Chromebook）修理受付など、様々な学生サービスに応えられるよう職員を配置し、対応している。
- ・奨学金制度関連の手続きや、学納金の延納・分納の受入、高等教育の無償化新制度における授業料減免および給付型奨学金等、家庭環境に合わせた支援体制に基づき、丁寧な対応を心がけている。
- ・保護者に対して学生の成績を通知する際に、学校に対する要望等があれば、返信して頂くよう保護者をお願いをしている。
- ・学生の学修状況を鑑みながら保護者への連絡や面談を適宜実施しており、保護者の理解、協力を得るよう努めている。
- ・卒業生への支援体制は、証明書発行、就職斡旋等、個別に対応している。
- ・近況報告を兼ねて卒業生が来校することがあり、その機会に働いている環境や医療業界の最新情報を得ることができており、その情報は在校生へ就職支援をする上で重要な資料となっている。
- ・学生支援室より「求人案内」や「求人申込書」を医療機関に送付した効果もあり、臨床検査技師の求人は、例年より多くの求人票を受理した。
- ・卒業生には、Gmail および Career Map のメッセージ機能を卒業後も継続して利用できるようにしている。

【課題・改善策】

- ・学生個々の意思を尊重しながら、個別の対応を実施しているが、学生自身が学生相談のシステムを十分に認識しているとは言い難く、引き続き周知に努める。
- ・求人票の適切な管理および情報提供により、学生の自主的な取り組みが見られるが、より積極的な学生支援室の利用を促していく。
- ・実習先の医療機関以外でも、施設訪問を実施して、学生や求人等に関する情報交換や進路開拓に努めていく。
- ・学生便覧の配布や入学時のガイダンスの実施などにおいて、学生相談の利用方法に関する認知度を引き続き高めていく。
- ・学生の個人情報に留意しつつ、学生相談で得た情報を共有し今後の指導に反映させる。
- ・学納金納付困難な学生に対する奨学金制度の充実などに努めていく。
- ・コロナ禍の影響などで、登校できない場合の学生相談等について、リモートおよび Gmail を利用し対応できるようにする。
- ・Google Workspace を日頃から教職員と学生とのコミュニケーションツールとして利用することを推進し、さらに、卒業後の就職・転職活動や同窓会情報の提供等、引き続きこれらのツールを利用していく体制を整えていく。

VI 教育環境

	評価項目	評価
26	施設・設備は、教育上、充分に対応できるよう整備されているか	4
27	実習やインターンシップについて、十分な教育体制が整っているか	4
28	防災に対する体制は整備されているか	4

【状況】

- ・老朽化に伴う故障のため、3カ所の教室について、高輝度プロジェクターに交換した。
- ・学校花壇に四季折々の花苗を植え、校舎周辺の美化管理に努めた。
- ・実習やインターンシップについての教育体制は整っており教育に活かされている。
- ・学習スペースで自習する学生の為に、LED照明を設置している。
- ・消防署との連携強化を図り、新たに防災計画書の作成などに努めた。
- ・消防設備点検で指摘を受けた、老朽化・バッテリー容量不足等で交換・増設が必要な消防設備・誘導灯などを改修した。
- ・緊急地震速報の装置を更新し、定期的にテスト放送を行っている。
- ・学生用の災害時備蓄品として保存食・防災セットを整備し、定期的に点検している。
- ・災害時備蓄品としてカセットコンロ、心電計、血圧計、聴診器を整備し、実習でも使用しながら、定期的に点検している。
- ・教職員会議で、災害時の安否確認を想定した緊急連絡網を再度見直し、学生に対しては、研修旅行や体育祭などで実際に安否確認連絡のテストを実施した。
- ・東京都環境局の調査で、高濃度 PCB（ポリ塩化ビフェニル）入りの照明器具がいくつか残存していることが判明し、これらの処分及び LED 照明への交換工事を行った。

【課題・改善策】

- ・教職員と学生の更なる情報共有等の向上に取り組んでいく。
- ・学内施設の設備の整備及び最新の教育機器の導入に取り組む。
- ・教職員全体で環境美化、清掃活動に積極的に取り組めるよう計画を進めていく。

- ・作成した防災計画書に基づき地震災害を想定した訓練を行うなど、内容の充実を図っていく。
- ・実習室でガスバーナー等、火器を多く使う臨床検査技術学科の学生については、消防署の指導による消火器訓練を実施したい。

VII 学生募集と受け入れ

	評価項目	評価
29	学生募集活動は、適正に行われているか	4
30	教育成果の情報提供は、適正に行われているか	3
31	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し検証しているか	4
32	学納金は、妥当なものとなっているか	4

【状況】

- ・募集活動や情報提供、入試選考等、適正に実施している。
- ・外部の進路ガイダンスでの本校志望者に対しては、体験入学等への来校を促進し、改めて本校の教育内容等の理解を深めてもらえるように努めている。場合によっては、個別のリモートや Web 動画配信などで本校の情報提供を行っている。
- ・入学手続き者に対し、Gmail の初期設定を事前に行った。それをふまえて、12月中旬から3月末まで入学前教育を対面及びオンラインで複数回実施している。入学前教育終了後は、Google Workspace Classroom より課題の配布、Google Workspace Forms による課題提出などを行っている。
- ・両学科とも入学前教育をサポートするための、担当者を配置し、問題作成や添削のほか、リモートや電話による相談などにも対応できる体制を整えている。また、教員と新入生との間で Gmail を利用して気軽に質問や相談できる環境を整え、不安要素を取り除いたうえで、入学後もスムーズに学生生活がスタートできるように努めている。
- ・入試については、Web 出願機能を導入している。
- ・入試に関しては、実施要領を作成し、特に面接の設問等はそのマニュアルに従い厳正なる選考を行っている。
- ・学納金等は、適正かつ妥当な金額に設定している。
- ・学納金等については、学校運営経費や教材費、諸経費等の無駄な支出がないか、常にチェックをしている。
- ・学納金及び奨学金制度等については、募集要項及び Web サイト等を通じ、情報提供を行っている。また、今年度から実施している高等教育の無償化新制度における授業料減免および給付型奨学金については、該当者に対して丁寧に対応している。

【課題・改善策】

- ・少子化対策や競合分野における大学の学部等の新增設に対応すべく、広報担当者を中心として、教職員と連携して学生募集および情報提供に努めていく。
- ・入試の面接に関しては、マニュアルに従い厳正なる選考を行っているが、面接室によっては、2人の面接者の評価が厳しく分かれる場合があり、なるべく均一に評価できるように、教職員会議でも統計資料を提示しながら対応を検討していく。
- ・入学希望者の対応について広報担当者以外の教職員も即時対応できるよう情報の共有、研修等の強化を図る。

VIII 財務

	評価項目	評価
33	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4
34	予算、収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	4
35	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
36	財務情報公開の体制整備はできているか	4

【状況】

- ・教職員一同の努力によって財務基盤は安定している。
- ・将来に向けた設備投資のため、中長期による予算、収支計画を練っており、必要経費を確保しながら学校運営にあたっている。
- ・会計監査は適正に実施されており、外部の税理士による確認も実施している。
- ・本校 Web サイトで財務情報の公開を行っている。

【課題・改善策】

- ・将来に向けた設備投資に関して具体的な計画書を作成する。

IX 法令等の遵守

	評価項目	評価
37	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
38	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
39	自己点検・評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
40	自己点検・評価の結果を公表しているか	4

【状況】

- ・普段より法令及び設置基準等の遵守に努め、適正に学校運営にあたっている。
- ・個人情報について、特に USB 等の記録媒体の管理上の取扱に配慮している。
- ・自己点検・評価について改善のために取り組み、問題点の改善に努めた。
- ・本校 Web サイトで自己点検・評価の結果を公表している。

【課題・改善策】

- ・個人情報を含む、諸表簿の整理、処分を含めた管理体制を維持する。
- ・自己点検・評価を具体的な改善につなげるべく教職員会議等の機会を活用しながら、校務分掌や教育活動等の遂行状況の把握を促し、意識させていく。

X 社会貢献

	評価項目	評価
41	学校の教育資源を有効活用した社会貢献を行っているか	3
42	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
43	地域や関係団体との連携や交流を通して、地域活動に参加しているか	2

【状況】

- ・「国立科学博物館大学パートナーシップ」に加入しており、多くの学生が科学リテラシーやサイエンスコミュニケーション能力向上の研修を行った。
- ・「国立科学博物館大学パートナーシップ」を多くの学生に利用してもらうために、学内掲示板や学生ポータルサイトで最新情報を発信した。

- ・夏休み親子科学教室（小学4～6年生対象）、中学生及び高校生による職場訪問の受入れを行っていたが、本年度もコロナ禍により開催中止や受入制限をした。
- ・教育資源を広く社会に対して活用していく体制を整備している。
- ・校外で実施されているボランティア活動情報の掲示など支援の取り組みを行っている。
- ・臨床検査技師の認定資格試験、講習会の会場として施設を提供している。
- ・JAAS（日本科学振興協会）に法人会員として参加している。
- ・渋谷区こども科学センター「ハチラボ」において、校内で実施していた「夏休み親子科学教室」と同様の体験型のワークショップを小学生および中学生対象に行う準備をしている。

【課題・改善策】

- ・地域交流の体制を整備していく。
- ・地域の中学生を対象とした臨床検査技師、診療放射線技師の仕事についてリモートによる特別講座や交流活動などの開催も検討していく。
- ・学校行事において、感染症対策を十分行ったうえで、清掃活動等の地域貢献に係る事項を検討していく。
- ・ボランティアの依頼があれば積極的に参加するとともに、コロナ禍での社会貢献の在り方について検討し、実施につなげていく。
- ・JAASの活動に学生が参加するように促していく。
- ・今後も可能な限り柔軟に学校施設を、関係団体に提供できるよう検討する。